

ご自由にお持ちください

失語を知ろう

失語症とは脳の病気によって、言語を司る言語中枢が障害され、聴く・話す・読む・書くといった言語機能に障害が出る病気です。

言語の問題は外見では分かりにくく、他の人から理解されにくいという事があります。そのため、ご本人の症状を理解し、適切な方法で接する必要があります。



言語聴覚士

失語症によって生じる症状

聴く



- 聴力は正常だが、聴いたことばの意味が分からなくなる
- 大勢での会話を聴き取ることが難しくなる

話す



- 言いたいことばが浮かんでこない（喚語困難）
- 実際のことばと違うことばを言ってしまう（錯語）
- 文章で話すことが難しくなる
- 口や舌の麻痺がないのに、たどたどしくなる
- 前に言ったことばが続いて出てくる（保続）

読む



- 文字や文章の意味が理解できなくなる
- 一般的には漢字に比べ仮名のほうが難しいことが多い

書く



- 文字が思い出せない
- 文章を書くことが難しい

失語症と間違われやすい症状

● 認知症

認知症は記憶することが難しい状態です。失語症は言葉がうまく話せない状態で、物事の記憶ができないわけではありません。

● 難聴

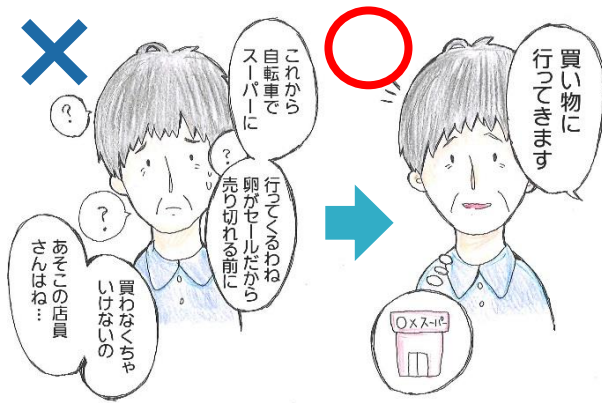
失語症は理解が難しくなっている状態で、耳は聞こえているため、大きな声で話す必要はありません。

● 構音障害

構音障害は舌や口唇の麻痺により話しにくい状態ですが、失語症の場合、麻痺が原因ではなく、言葉を思い出すことが難しい状態です。

失語症の方とコミュニケーションをとる上でのポイント

- ゆっくり分かりやすい言葉で話しかける



- 言い誤り（錯語）については過度に指摘せず、話の文脈から推測して接する。



- 言葉が出にくい場合は「はい」か「いいえ」で答えられる話しかけをする



- 50音表は難しいことが多いため、どのような方法が良いか言語聴覚士に相談する



- 話し言葉だけで理解しにくい時は、短い文字（漢字）や絵を書いて見せる



家族教室開催中！

毎月1・2・3・4週目の土曜日

13:00～14:00

入院患者さんのご家族を対象に、
家族教室を開催しています。

（このリーフレットに関連する内容は
第2週目に行っています）

詳しくは、担当の医療相談員まで
お問合せください♪